

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2019年12月1日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部／国際日本学科
留学先国	オーストラリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: 西シドニー大学 現地言語: Western Sydney University
留学期間	2019年2月～2019年11月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1,2,3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年11月24日
明治大学卒業予定年	2021年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:3月上旬～6月下旬 2 学期:7月下旬～11月中旬 3 学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	41,864 (2014)
創立年	1986

留学費用項目	現地通貨 (オーストラリアドル)	円	備考
授業料	0	0円	交換留学のため明治大学への授業料のみ
宿舍費	11,760	870,240円	到着日、帰国日に関係なく1月から12月まで支払い
食費	405	30000円	外食多め
図書費	0	0円	
学用品費	100	7400円	テキストブック
教養娯楽費	0	0円	
被服費	50	3700円	
医療費	0	0円	
保険費	108	80000円	形態:
渡航旅費	1890	140000円	
雑費	0	0円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計		円	

## 渡航関連

**渡航経路:** 飛行機

渡航費用

チケットの種類    エコノミークラス

往路                    70000 円

復路                    70000 円

合計                    140000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

カンタス航空

## 滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

寮

2) 部屋の形態

個室    OR     相部屋(同居人数5)

3) 住居を探した方法:

大学からの案内

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

部屋をきれいに保てるか、過ごしやすい環境を作れるかは、全てルームメイト次第。話し合うことが大事。



## 現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

利用する機会が無かった

利用した：可能だったが、日本のシステムとはだいぶ違うので大変だった。

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

親、友達、留学の担当オフィス

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

ニュース。大学のある地域は安全だったので特に防犯対策はしなかった。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例：寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮の WIFI は不安定なときがあった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ (例：現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地のバンクアカウントを作って、親から送金してもらった。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

基本的に何でも買えます。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例：渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)



## 卒業後の進路について

## 1) 進路

就職    進学    未定    その他:

## 2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例: 留学中の就職活動に向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

帰国してから、何から始めればよいか分からない状態ではありますが、留学中は現地の生活に集中しても良いと考えています。帰国してからも、インターンシップの機会もありますし、特に心配はしていません。以前から、航空会社勤務に興味があり、そちらの路線で就活してくつもりです。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
60単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Contemporary Society	現代社会
科目設置学部・研究科	School of Humanity and Communication Arts
履修期間	3月～6月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・チュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Shane Hersey
授業内容	現代社会の問題(環境問題、ジェンダー、レイスなど)について映画やYOUTUBEの動画、テキストブックを通して学んだ。
試験・課題など	オンラインクイズ, Take home quize、エッセイ
感想を自由記入	この学部学生にとっては必修の科目で、内容も比較的簡単だったので、授業を集中して取り組むのが難しかった。しかし、同時に取っていた他の授業が難しかったので良いバランスが取れたと思う。レクチャーでは、社会問題をゾンビ映画やアクション映画から学ぶこともあり、新鮮だった。チューターが丁寧に課題の説明やエッセイの書き方を教えてくれたので、基本を見直せる機会になったのは良かった。
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Diversity and Difference	ダイバーシティと違い
科目設置学部・研究科	School of Education
履修期間	3月～6月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンライン講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Christine Jones Diaz
授業内容	Child Care の中にある、多様性と違いについてテキストに沿って学他、動画鑑賞やディスカッションを通して理解を深めた。
試験・課題など	Critical Conversation、エッセイ二回
感想を自由記入	初回の授業に行ったときに、この授業の内容が、オーストラリア社会の Diversity ではなく、オーストラリアの幼児教育における Diversity であると知り、自分の勉強分野外であるし、周りの学生は将来幼児教育者になる人だったので場違い感を感じた。授業変更しようかと悩んだが、国際日本学部では学ぶことができないため、挑戦することにした。多文化社会を支えるため、また、社会的格差から生まれる差別をなくしていくために、どのようにして幼児教育が重要な役割を果たすかを学ぶことができた。以前の私なら、政治を学んでいたこともあり、社会的格差の問題は、政府が中心に解決すべきだと完結していたが、そもそも幼少期から、人々の格差や違いを、その人の個性として受け入れるように教育をすることで、将来的に社会問題を軽減することができるという新しい観点を得ることができた。それにより、自分の考え方の幅が広がったように思う。また、エッセイやディスカッションが難しかった分、上手くできたり、チューターに褒められると自信にもつながった教科でもあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Politics of Australia and Asian Relations	オーストラリアの政治とアジアとの関係
科目設置学部・研究科	School of Communication and Arts
履修期間	3月～6月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンライン講義とワークショップ(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	David Walton
授業内容	オーストラリアの政治とアジア諸国との外交関係について、テキストブックで学んだり、外務省のホームページでデータを調べてディスカッションしたりしました。
試験・課題など	エッセイ2回、ワークショップでのシミュレーションとそのレポート
感想を自由記入	自分の興味がアジア政治なので、オーストラリアの観点からアジア、特に日本を見て学んだのはとても興味深かった。ただ、知識の豊富な学生が多く、ディスカッションについていくのは大変だったし、途中でよく訳分からなくなった。ウォルトン先生は以前明治大学で教えていたということもあり、大変親切で、授業後にはよく質問にいていたのを覚えている。シミュレーションの課題があり、外交官になりきって政策をグループで発表した。「北朝鮮の非核化についてオーストラリアの外務省としてどう対応するのか」というテーマだったのだが、話し合いの際に周りの学生が日本の拉致問題について無知だったことは個人的にショックだった。日本ではこんなに話題になっているのに、アジア政治を学んでいるオーストラリアの学生、中国の学生ですら知らないなんて、驚きであるとともに、自分がその問題を少しでも伝えられて、他学生が知るきっかけになったのは良かったのではないと思う。レベルの高い授業であるのだけに大変ではあったが、グループ課題中にメンバーの一人に、私の調べている内容に対して、「すごく参考になる」と言われたときは、本当に嬉しかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to International Relations	国際関係論の導入
科目設置学部・研究科	School of Communication Arts
履修期間	7月～10月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンライン講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Diane Colman
授業内容	国際関係論について、テキストや教授のスライドを通し theory をまず学び、それを実例に当てはめ、理解を深めていった。
試験・課題など	オンラインクイズ、エッセイ2回、Take Home Quizzes
感想を自由記入	ユニットレベルが1なので比較的簡単にこなせると思って挑んだものの、内容はかなり難しく、リーディングの量も多くて結果的にすごく大変だった。広島原爆の話になったときに、ふと泣いてしまったが、横にいた学生が、席をたってペーパーを持ってきてくれて、ハグしてくれた時には、本当に心が温まった。このように、他国の理解を深め、人々に寄り添えることが、国際関係論を学ぶ意味であるし、また、世界の問題を、様々なバックグラウンドを持つ学生と共に学ぶことが国際関係の土台になっていると感じた。今後、沢山の世界的問題を考える上で、欠かせない教科であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
People, Place and Social Difference	人々、場所と社会的違い
科目設置学部・研究科	School of Social Science
履修期間	7月～11月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンライン講義、チュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が1回
担当教授	Garth Lean
授業内容	シドニーの社会的な差異を地理的な違いから分析し、考察する。
試験・課題など	エッセイ2回、試験
感想を自由記入	シドニーの地理について詳しくなかったのですがその面は大変ではあったが、結果的に後期の中で一番楽しい授業であった。教育レベルの違い、月給の違い、国籍の違いなどが住む場所によって変わったり、それが差別に変わってしまう問題など、multicultureの国ならではの問題を学べた。更に、この教科をきっかけに、社会学の分野に興味を持つようになった。ベトナム人、中国人タウンと言われている、Cabramatta という場所にフォーカスした課題では、普段目に着かない看板やお店がもつコミュニティー内の役割を考え、Ethnic Enclaves の利点、欠点を考えた。難しい課題ではあったが、日本には難民の歴史が〇〇人街を作った前例がないので、新鮮で、面白かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
The Asian Century	アジアの世紀
科目設置学部・研究科	School of Communication and Arts
履修期間	7月～10月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンライン講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Karen Entwistle
授業内容	21世紀はアジアの世紀と言えるのか?というテーマで、アジア諸国の政治状態、外交、経済をリーディングや、オンライン講義から学び、クラス内では教授が質問する形で理解を深めていった。
試験・課題など	エッセイ3回
感想を自由記入	一番レベルが高いユニットだったので、ここで学んだことをゼミに生かそうという思いで取り組んだものの、元々の教授がニュージーランドに行ってしまったため、代理の人がずっと教えていた。大変優しい人ではあったが、授業の進め方、課題の説明などがしっかりマネジメントできていなく、正直チュートリアルで学んだことは0%。オンラインレクチャーとリーディングから学んだことがほとんどだった。本音を言うと、チュートリアルに行く学生も減り、行く意味を見出せなかった。ただ、2000字の英語エッセイをこなせたのは、本当に大変だったので、自信につながった。

留学に関するタイムチャート
---------------

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2017年 1月～3月	
4月～7月	TOEFL の受験と出願
8月～9月	
10月～12月	
2018年 1月～3月	出発、授業開始
4月～7月	秋学期終了、ブレイク、春学期開始
8月～9月	
10月～12月	ファイナルテスト、春学期終了、帰国
2019年 1月～3月	就活
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	



## 留学体験記

留学しようと決めた理由	幼い頃から英語を勉強するのは好きで、もっと話せるようになるために、留学に興味があり、大学に入ったら留学しようと決めていました。英語は得意でしたが、入学後、上手く英語力が伸びず悔しい思いをしました。また、国際系の学部には入ったものの、周りの友達は日本人ばかり、日本人の意見しか聞かず、日本語を使う生活でした。このままでは、英語力の向上に限界が来てしまうし、もっと多様性に触れたいと思い、留学の思いが強くなりました。また、アジア政治や多文化社会の勉強をするうちに、多文化社会のオーストラリアで勉強することに興味が沸き、決心しました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	とにかく、TOEFL の受験勉強に力を入れました。最後の最後まで、点数が出なくて、すごくストレスになりました。特に周りのみんなと受験時期が違うので、遊びの誘いも我慢して、勉強に励みました。また、国際日本学部では英語の授業に本気で取り組みました。特にライティングは 2 年生の時の先生が厳しく教えていたので、そこで直されたこと、新しく学んだことを全て身に着ける勢いでやりました。もう少しやっておけばいいと思ったことは、会話表現の学習です。現地の学生、特にオーストラリアの英語は特徴があるので、会話表現を知っておくと、特に聞き取りがスムーズになると思います。
この留学先を選んだ理由	2 年生でのアメリカの大学への交換留学の面接に落ちてしまい、就活のことも考えると、チャンスは 3 年生でのオーストラリアしかないと思いました。とにかく留学してやるぞ、という思いで TOEFL の点数上げのために勉強し、オーストラリアの大学に留学することを目指しました。最初は、オーストラリアにこだわりはありませんでしたが、調べれば調べるほど、オーストラリアでしか学べない多文化共生の授業などに興味を抱き、また、安全な国でゆったりと勉強できることにも魅力を感じ応募しました。
大学・学生の雰囲気	とにかく多文化、多国籍な学生が多く、日本とは違う風景が広がっていました。キャンパスの立地もありますが、特に中国、インド、中東バックグラウンドの生徒が多いと思いました。教授も学生も、スタッフもフレンドリーな方が多く、特にイベントに参加した際は、すぐに溶け込めた記憶があります。交換留学生や、International Student が多いため、各国の文化サークルがあり、その団体が開催するイベントがよくあるので、多文化なキャンパスライフが送れました。また、大学には、沢山のフリーイベントや、フリーフードがあり、試験期間中のフリースナックにはよく助けられていました。
寮の雰囲気	アウトティングや、フリーフードなどのイベントがよく開催されていました。前期はよくフリーディナーに参加していましたが、後期は寮外のお友達と遊ぶことが増えたので、イベントにはあまり参加しませんでした。今でも覚えているのは、入寮初日にオーストラリア人の RA と呼ばれる寮のリーダー的な人が、早口の英語で寮の説明をし、理解度 10% だったのに、半強制的にサインされたことや、フリーブレックファストの時に長蛇の列に並んでずっと待っていたのに、その RA が友達を優先的に案内して、「ごめんこれでいい？」って、黄身の割れた卵渡してきたときは、カチンと来ました。寮の中では、たまに、人種差別を感じる時があり、悲しい思いもしましたが、理解のあるルームメイトとよく愚痴をして発散していました。
交友関係	前期はとにかく友達作りに精を入れました。寮のイベントに参加したり、誘いにはなるべく行くようにしたり、クラスの中では積極的に話しかけました。そのおかげもあり、クラスで出会った友達とは、その後一緒に旅行に行くほど仲良くなりました。多少忙しくても、遊びに誘ったり、誘われたら断らないようにすることで、「友達になりたい」という態度を見せることが肝心だと思います。私もそれほどフレンドリーなほうではないので、頑張った記憶があります。そのおかげで、留学期間中によく遊び、旅行に行った友達とまた、将来の旅行の計画を立て、再開を約束しました。一生の友達が出来たと思います。

<p>困ったこと、大変だったこと</p>	<p>大変だったことはルームメイトとの喧嘩です。私のアパートにはオーストラリア人のルームメイトがいました。最初は仲良くして、みんなご飯を作り合ったり、お出かけしたり、海に行きました。しかし、彼女は一度も掃除はしないし、ごみは捨てないし、ドアをうるさく閉めるし、私たちは言いたいことがたまっていました。ある日、その子が私たちに無許可で友達を呼んで平日の夜中にパーティーをしたにもかかわらず、全く後片付けをせずに数日そのままにしていました。そのため、掃除をするようにメッセージを送ると、アルバイトしてるからメッセージを送らないでくれ、と全く筋の通らないことを言われ、私たちはたまっていたことが爆発しました。そこから、関係がぎくしゃくして、そのまま問題が解決せず、最終的には一人のルームメイトが寮の管理人にレポートしたことで、その子は怒り、更に気まづくなってしまう、数か月間気を使うような生活で少し疲れしました。勇気があることですが、気になることはためずに、その時に言うべきだと思います。</p>
<p>学習内容・勉強について</p>	<p>国際日本学部で英語の Writing や Reading についてはずっとやっていたので特にすごく悩んだ覚えはありません。しかし、政治を英語で学ぶのは骨の折れる作業でした。専門用語を検索しながら文献を読むには時間がかかり、時には 2 ページに 30 分以上かけることもありました。また、教授が何を言っているか分かって、学生がどのように意見しているか、そのネイティブのスピード感や発音に慣れるのには時間を要した記憶があります。しかし、多様なバックグラウンドを持つ学生の意見に触れることで、刺激を受けるとともに、根拠を持って意見する姿にインスパイヤーされました。大勢の意見がいつも正しいわけではない、自分の意見を持つ大切さも感じました。日々、新しい発見がある、学びのある留学生活になったと思います。</p>
<p>課題・試験について</p>	<p>留学の中で一番苦しかったことと言えば、エッセイです。息できなくなりそうなほど切羽詰まり、何度もくじけそうになりました。特に大変だったのは、自分の考えの正当性を証明するためのソースを見つけることです。基本的には、ウェブサイトは使えないので、関連する本や論文から、裏付けとなるセンテンスを探し、それをパラフレーズして、盛り込まなくてはなりません。オーストラリアの大学は特に、Academic Misconduct に厳しいので、自分の文の中に、文献のコピーと間違われるような言い回しが無いように、正しく引用されているかなどを何度もチェックしました。できたエッセイは友達や図書館にいるアドバイザーに見てもらいました。前期は、自分の生活と課題に取り組む時間のバランスをとるのが下手で、一つのことに無駄に時間をかけてしまいましたが、後期は、課題にかかる時間の目安が分かるようになったので、友達との予定や、学外の活動にも積極的に参加できました。</p>
<p>大学外の活動について</p>	<p>大学とは別にシドニー国際空港でのボランティアをしていました。とにかく勉強とは違う他の活動がしたく、また、英語のスピーキング能力にチャレンジしようと思い応募しました。。実際やってみると、朝 4 時半に起きて、1 時間半かけて空港に行く生活は本当に大変でしたし、スムーズに案内できず、怒られたりもしましたが、英語をつかって道案内するのは勉強になったし、フェローメンバーと休憩中楽しく会話したりと、やりがいも生まれました。最終的にはチームリーダーとしても活動しました。このボランティアだけではなく、日本の祭りボランティアに参加したり、大学内ですが、ビジネスプロジェクトに参加したり、新しいことに何度も挑戦しました。</p>
<p>留学を志す人へ</p>	<p>私は、アメリカ留学に落ちた時、敗北感とやるせない気持ちでいっぱいになり、なかなか切り替えられませんでした。しかし、留学する思いが強かったので、その後も諦めずに英語の勉強を続けました。だからこそこうしてオーストラリアに留学でき、また戻りたいと思うまで好きになって帰ってこれました。今後の人生で「あの時こうしておけば良かった」という後悔をなるべくしないようにすることが大切だと思っています。だからこそ、多少自分にとって新しいことであったり、挑戦になりそうなことであっても、やるかやらないかであれば「やる」を選ぶ留学生活にすることが私からのアドバイスです。そうすれば、自分を大きく成長させることができると思います。応援しています。</p>

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	自習	自習	自習	自習	自習	課題など	ボランティア
				授業		グローセリー ショッピング	
午後				授業			友達とブラン チ
	授業		Japanese Student Association				
夕刻							
夜			フリーディナー		友達とディ ナー		

